

＜発展戦略全体に関する意見＞

●これから大切なのは「国際性」。もう日本の国の中だけで考えるのではなくて、国際的な中でどう考えるか。その際に、国としてやる部分と、県、地域でやる部分、国を通してやらなければいけないことと、別に通さなくてもいいことがある。もっと言えば、国を通すよりはむしろ県から直接、国際的視点で考えることができるかということ。そういう国際的な位置付けの中で岡山県をどうするかということが、いろんなところに関わってくるのではないか。そういう視点で見ておかないと、長期的な展望も、的確な対策も立てられないのではということ強く感じた。

●検討分野は、実は全部有機的につながっている内容だ。個々のレベルで議論することと、その相乗効果でどう成功していくのか、その点を絶えず念頭に置いて考えていかなければいけない。それから今、ヨーロッパ、アメリカなどでも、「ローカリティ」、ローカルの部分も合わせて考えていかないと本当のグローバリズムに至らないのではないかという議論に至っている。前から「グローカリズム」とかという話は出ているが、今こそ、そういった輻輳する地域性の上に立ってグローバリズムというものを念頭に置いていく必要もあるのではないか。

●御案内のとおり、国としてその地域の特性を生かしていく政策を取る場合に、もう、1カ所1テーマぐらいしかやれないと思う。そうすると、集中投資をしていくということになれば、この地域というのは何の顔があるのかとなる。最近、私の周辺で「岡山県」という名前が出てくるもので考えると、バイオマス、先端医療、それからもう一つ、最近「ESD」(Education for Sustainable Development)がある。ESDは環境教育ということで、それを公民館を使ってやるというのがあり、岡山が全国的にも有名で、多分近日中に岡山で国際協力に関するシンポジウムが開かれる。岡山にある山間部で、バイオマスそれからサステナビリティ、環境、医療、そしてそれをつなぐプラットフォームとしての公民館なりコミュニティという、そういう切り口で少し整理をしていくことが、この発展戦略を考える中で、その特殊性を出せることだと思う。もちろん国際性もある。それで一番避けないといけないのは、項目を並べると、結局総花式でどれも大切で、何が一番重要だったのか分からなくなるということだ。

●岡山の発展戦略会議ということでそれぞれの項目が挙がっているが、これが現実的に非常に有効に働くためには、人なり物なりがいかにスムーズに動くかということが大切である。岡山の優位性は、交通の利便性ということだが、特に国内においてあるいは西日本において明らかだ。それぞれのことを有効に生かしていくためには、交通の利便性という岡山の優位性をベースに生かしていくのだという、基本のところ大切になってくるのではないか。海外とのつながりの港、空港。そこからのアクセス、インターチェンジからのアクセスなどポイントになるところの動きをうまくやっていくことで、それぞれが機能して

くる。人、物がスムーズに動くと環境にも非常に影響がある。交通がスムーズになれば、車の排ガスの排出量も減る。有利なところの生かし方を十分注意していかないと、いいものができたけど実践の上ではだめだったということになりかねない。

●岡山の企業で全国展開をするときに、「どうしても岡山の名前を出したくない。その方が全国展開しやすいのだ」ということを最近いくつか聞く。これは一つの大きな問題ではないかと思っている。また、この数年間、中国によく出向くが、10年ぐらい前は、中国の各高校、各大学が、「岡山でもいいから日本に行けたらな」というような考えを持った大学、教員、学生がたくさんいた。ところが、中国が成長したため、この1～2年は、「岡山なんて、我が大学は東京の方でもいける」となってきた。大学関係では「岡山なんて」と言われ、企業関係では「岡山の名前を出したくない」ということになると、岡山というものの、実際の力が、何か相対的に落ちてきたような感じもする。日本全体が国際社会で落ちてはいるが、その中でも岡山が、ちょっと元気がないのかという感じもする。そのあたりの実の面も何とか、戦略の面で強化していかなければいけない。

もう一つ、虚の問題、これはイメージであったり、ブランディングであったりと思うが、実をカバーしてくれるのではないかということ、イメージ戦略といった面が岡山県に足りないのではないかという感じがする。どれを持ってイメージ戦略のポイントにしていくか。岡山の場合には、医療関係が飛び抜けていると高い評価があるが、北海道から沖縄まで、そのようなイメージが定着しているのかどうかという問題もある。客観的に、日本国内における岡山の位置付け、あるいは国際社会における日本さらには岡山の位置付けというものを明確にして、その中で戦略を立てていく必要があるのではないかと思う。

●一つは、日本の製造業が、御案内のようにどんどん外へ出て行くということで、各地、あるいは政府全体としても大変危機感を持っている。いったん出て行ったものはなかなか戻ってくるということは期待ができないので、今、国内でやろうか海外でやろうかと迷っている企業に、政府が今年1,100億円に補助金を用意した、低炭素の産業が国内に残る場合の立地補助金があって、中小企業、大企業を含めて、迷っていた人たちが「これが使えるのなら、国内に投資をやって残ろう」ということで、そのようなところが各地でだんだん出てきている。「条件がほとんど一緒なら日本に残ろう」という会社は多いはずなので、このようなものをぜひ広めて、一つでも多くの中小企業の方々に利用してもらえるように急ぎ取り組んでいただきたい。

二つ目は、日本と中国の産業界と政府が一緒になって、これからの環境省エコビジネスがどういう方向に向かうかというのを議論する「次世代自動車のワーキンググループ」をのぞいて感じたが、やはり今後の大きな方向は、プラグインのハイブリッドが主流をなし、電気自動車はセカンドカーという位置付けが、かなり大勢の人にシェアされている方向かと思う。電気自動車はセカンドカーという需要もそこそこ出てくるかと思うが、急速充電器は工事費込みで500～600万円と非常に高い。将来の姿は、むしろ普通充電が、中国の場合でも日本の場合でも主力になっていくという方向にあるかと思うので、急速充電にまとまった投資をするときには、そこは慎重に考えて、先行きの見通しを見定めた方がいい。

三つ目に「グローバル人材」ということで、岡山の発展戦略を考えるに当たって一番大事なのはこの点だと思っているし、岡山には、大学でそういう方向をすでに目指していたりポテンシャルを持っているところが多い。これを育てる取組の具体化を急いで欲しい。これは、岡山のためでもあり同時に、日本全体にも言えることだ。仲間のメーカーの人たちが言っている話を聞いても、「とにかく外へ行くのがこれからの活路であることは間違いないが、それを支える人材がいない」ということで困っている企業が本当にたくさんいる。ぜひ岡山が強い吸引力を持って、日本の学生であり、場合によっては海外の学生でも結構なので、岡山で教育をして、世界に通用するような人材を一日も早く育てるということの具体化を急いでいただけたらと思う。

もう一点、シルバーの関係について、日本の技術を支えてきた、あるいは仕事の倫理とか職業倫理観とかも含めて日本のこれまでの発展を支えてきた、技術系あるいはマネジメント・文化系の両方のシルバーの人たちを若い起業家の人たちにうまく結び付けて、創業にチャレンジする、そのお手伝いをしていく。そのことが、シルバーの人たちを社会全体で活用して社会の元気を盛り上げるということに間違いなくつながっていくと思う。

●海外から逆に国内を見た場合に、特に岡山という顔が見えない。例えば、大田区のように製造業だと色々な展示会に出したり、地域単位で進んで取り組んでいる地域もあるので、各検討分野をまとめて、やはりトータルとして岡山というものを、大きく表面に出して進めていくのも重要ではないかと思っている。グローバルに海外展開するためにも、人材育成というのをぜひ進めていっていただきたい。介護の問題もそうだが、国内で人材が枯渇してきている。人材が足りない一方で、海外では、そういう職に就きたいという方もたくさんいる。そういう職で日本にも就職したという方もいるので、その辺りをぜひうまくまとめて、岡山の発展に結び付けていったらいいのではないかと思っている。

●岡山の製造業が、中小企業を含めてどんどん外へ出ていってしまう、あるいは集約化その他でなくなるというか雇用が減ってしまってきているという現象がある。岡山の発展のためには、人口減少は避けられないにしても、少なくとも全国に比べてそのテンポが相当少ないような、特に、定住人口の減少は無理にしても、移動人口では増えるというような戦略が必要なのではないかという気がしている。例えば移動人口という意味では、観光とか留学生という問題であるし、定住人口で岡山に特色を出して、新しい分野での雇用を増やしていくという意味では、新しい先端のいろんな産業、バイオマスというのも当然プラスにはなり得るが、雇用吸収力という意味では非常に限られたものになる。岡山にとってまだまだできるという意味では、農業がかなりいけるのではないかと思っている。伝統的には農業県なので、もう少しこの分野で雇用を外から引き付けるぐらいのものが、必要なのではないか。

もう一つ、岡山の特色は、やはり医療・介護の分野だ。この分野はメディカルツーリズムを含めて、まだまだ人口増を期待できる、あるいは移動人口を期待できる分野と思っている。そのような産業に力を入れるということが重要ではないか。

<アジア経済に関する意見>

●岡山県としてアジア全体を相手にするというのは、到底無理な話だと思う。だからといって、ではどの国というふうに絞るとするのも非常に難しい。地域単位あるいは都市レベルでいくつかピックアップして、集中投資していく。「日本と言えば岡山」というような拠点を、アジアの中でいくつか作る。いくつかの都市を、いろいろな縁を使って戦略的に、ある程度期間を決めて集中的にやっていく。中国あるいは韓国、インドネシア、インドというようなところで一つずつ拠点を想定しながら、一つの分野だけではなく、すべての分野でやる。いろんなことを含めて、ある程度絞ったターゲットをもって、そして、そこに行けば必ず岡山がナンバーワンになれるというポジショニングをとれる所を選ぶべきだ。それが、今まで個々に交流をしてきたところを今後も支えていく一つのポイントになる。

●この前、中国に行って、現地の支店長以下とも話して感じたのだが、沿海部の人件費の上がりようはものすごく急で、繊維とか雑貨とかという労働集約的な輸出産業の競争力は今やもうほとんどなく、赤字経営に陥っている会社が非常に多い。その方向は内陸に向かうのと、チャイナプラスワンということで、ベトナム、カンボジア、ラオス、それからタイ、インドネシアというものに向かっていく。ベトナム、タイ、インドネシアは今ものすごい活況を呈していて、人件費の上がりようも非常に高いので、中国の内陸部と、インドシナ半島のカンボジア、ラオスの辺りが今のターゲットになっている。比較的安い賃金を目指して進出する場合には、中国に今、進出しているところは大きく変わっていかざるを得ないと思う。

●アジアへ出ていくときに、これから注視しないといけないのは、持っている文明だと思う。アジアには、中国文明の影響を受けた国と、インド文明の影響を受けた国とがある。インド文明の影響を受けたところは、日本型の企業あるいは生産方式などが定着しない。中国、ベトナム、タイくらいしか、日本の今までのやり方は通用しないと思う。コストの問題だけで考えるのではなく、持っている意識、マインドの話も全部含めないと、なかなかそう簡単にアジアへ出て行くというのはできないだろうという気がする。もし出るのであれば、インド型の発想をするようなことを、こちらで用意をしていかないといけない。アジアはどこでも出ていけるとするのは、絶対に間違っていると思う。

●中国は長い付き合いを非常に大事にする。そういう意味では岡山県が中国をターゲットにする場合には、「友好都市」の地域との連携をもっと深めていくというのが戦略としてはいいのではないか。

アジア経済といった場合、国際化を図る場合でも、アジア全体ということは非常に難しいし、東南アジアのトライアングル構想の中で、どこを攻めていくかも、攻める国を最初に間違えると失敗する。そういう意味では、どこにピンポイントを当てていくかということを考えて、アジア経済を考えていけばいい。

●農産物は、中国にしる、広くアジアにしる、どこに売り込んでいくのか、どこに行つてどの層に売り込むか、がすごく重要だ。中国の富裕層の場合、日本のお米に対する信頼はすごく高い。富裕層にとっては、日本のお米の安全性というのはすごく魅力のようだ。有機米であるとか、より付加価値の付いたお米・農産物を、富裕層をターゲットに進めていくというのは、すごくいい方法だと思う。

アジアの中というのは、官官の付き合いはなかなかしづらいところがあるが、民民の付き合いはすごく有効性を持ってやられているというか、やりやすい側面がある。友好都市といった民民の付き合いを念頭において、そちらを前面に出すような形でやっていけたら、うまくいくのではないかと。

観光については、受入体制をまず整えてからでないと、一回受け入れ、よくなかったということになったら、あっという間に口コミで、「あそこへ行っても仕方がないよ」ということになる。受入体制を整えてから受け入れて、その上で口コミでリピーターを増やしていく形にしないと、逆効果になってしまう。

●中国の観光客が団体から小グループに変わってきた。大量に団体で入ってくるというやり方から、小グループ化している。福岡県では、2人から8名体制の中国人観光客に焦点を合わせて早々と対応している。そうなった時には団体を扱う以上に難しい。利益率は減るし、手間はかかるし、そういった形を戦略の中核にやっていくというのは非常に難しい。中国を考えた場合、日本の今から30年前ぐらいのように、大衆から分衆に変わってきているということ意識しながら戦略を立てたほうがいい。

●銀行として重要な仕事は、進出企業の工場用地をいろいろ探す役目だったが、最近はかなり変わってきた。圧倒的に中国に物を売りたいという企業が増え、上海、大連でいろいろなビジネスマッチングを主催している。いくつかの銀行と一緒に開催する、そのような仕事が非常に増えている。岡山の企業も、上海で開催したものに全部で20社近く、こちらから行って、ブースを作っていた。そういう意味では、同じように進出しているのだけれども、企業の販売拠点あるいは提携先を作ろうというように変わってきている。

コストの点を重視するのは、やはりベトナムから西の方に向かっている。岡山県国際経済交流協会がインドセミナーを開催したが、ベトナムの場合よりもはるかに多くの80社もの岡山の企業が参加した。また、バングラディッシュにもすでに岡山から行って適地を探している動きが出ている。人件費狙いの企業は、まだ安いところに進出しており、いろいろハードルはあるかもしれないが、そういうのをサポートするのも仕事かなという気がしている。

観光の面では、メディカルツーリズムについて、岡山の病院と旅行業者で提携して、中国人を数名から10名ぐらいで受け入れて、割合成功していると聞いている。岡山は、医療が大変よく、病院もたくさんあるので、今後、他の地域への優位性を持ってやっていける分野だと思う。ただ、まだ受入れ体制が必ずしも十分できているとは言えないのではないかと。

●メディカルツーリズムがもう少し広がってくると、例えば産油国の富豪たちを受け入れ

ように思うと、空港の整備からしていかなければならない。彼らは自分で自家用機を乗り付けてくる。そうすると、ホテルなどから全部含めパッケージで考えなければいけない、本当にメディカルツーリズムを狙うのだったら、早くから準備しておかないといけない。逆に言えば、波及効果がものすごく大きい。

●アジアで言えば、タイで100万人、マレーシア・シンガポールで年間50万組ぐらい、メディカルツーリズムで中東を含めて受け入れている。今のような、単に病院だけではなく周辺のインフラをものすごく整備していると聞く。目指す方向はそのようなインフラと、それから国内で滞在許可を容易に出すとか、食事、言葉の面でサポートを用意するなどのソフト面の充実。その可能性というのは、タイ、シンガポールを見ていると、ものすごく大きい産業だ。

●彼らが安心して来るためのパッケージを作っておかなければいけない。日本の中で、今それができているところはどこにもない。医療か受入れのどちらかができていない。岡山には医療はあるから、受入れのところだけきちんとやれば、それはすごく大きなものになる。

●すごい吸引力がある。

●マレーシアに見に行ったことがあるが、医療以外のホテルとか、空港もそうだが、それが岡山のできるのであればやった方がいいけれども、巨額な資金が必要ではないか。

●それはソフトでやったらいい。彼らが安心してさえすればいいわけだから、例えば、招待して、一回見せて体験させてやればいい。

●どこかと組んで、広域的にやったらいい。

●今、行政刷新の規制改革の中で、メディカルツーリズムをやるために、例えば看護師さんを連れてくるときにビザを出すとかが検討されている。メディカルツーリズムは、どの地域も狙っている。個人病院で取り組んでいるところもある。こういう状況の中で、岡山がメディカルツーリズムをやるのであれば、どことやるのかピンポイントで早く受け入れて、そこを受け入れるためには、日本のどこへ行くよりも岡山が一番いいというように、そこをまずテーラーメイドで作って切り崩していかないと、全部をやろうと思っても大変だと思う。そういう取り組みを早くやらないと、やはりもう競争が始まっている。

<環境・新エネルギー>

●新しいエネルギーというと、すぐ太陽エネルギーという話が出るが、当面はそれでやっていっていいと思うが、今のままで太陽パネルをいくら改良したところで、エネルギー効率が 20 %いくかいかないか。これではコストの方が絶対高くなる。やはり新素材ということでやらないと勝負ができない。そのためにはすごくお金がかかる。少し無駄なようでも、例えば大学もそのようなところへ支援してやる。ネタはいっぱいある。もう少しやると面白いというのがいっぱいある。でも、なかなか国が金を付けないところがあり、それ以上はどうしても一歩進まないところがある。県が少し集中的に投資してやらせると、これはものすごいことになる。これをやらない限り、いくら今の太陽エネルギーでも、今の素材でやろうとしても限界があると思っている。

県は電気自動車をずっと推進されているが、戦略的に考えて、それは本当にいいのかとずっと疑問に思っている。電気自動車は言ってみれば、メカは簡単で、要するに電池とモーターで動いている。やはり日本がこれまでに作った自動車のすごいエンジンの技術だとかハイブリッドの技術だとか、あるいはトランスミッションの技術だとか、そんなものを総合したものが車なんだと思う。そこで勝負するべきだと思う。

●太陽電池の変換効率は 21.5 というのが日本で一番高いぐらいで、それをやはり 30 %台くらいまで上げるというのを目指して研究をやるべきというのは、そのとおриと思う。

電気自動車について、日本の主なメーカー、経済産業省の考え方も、今の状況ではやはりプラグインのハイブリッド（電池で 10 キロ 20 キロ走る、しかし、それを越えて長く走るときはガソリンエンジンで走る）が主流になるというのが世界の大勢だと思う。電気自動車は、走行距離がアイ・ミーブで 160 キロと言っているが、エアコンをつけてワイパーを動かしたら 40 キロ程度しか走らない。従って、街中だけを走るためのセカンドカーというような使い方なら足りるが、いま世界で開発されている電気自動車で 500 ~ 600 キロ走れる車はない。非常に気になるので、しばしば自動車メーカーや役所の人に聞くが、やはり、家庭で充電できるようなハイブリッド、それにガソリンエンジンがくっついているというものが主流というのは変らない。それは日本の自動車メーカーのすりあわせの技術があっではじめてできる高級というか複雑な技術なので、それが主流ということは日本の自動車産業がすごく元気を持ってやっていけるのではないかと、期待を込めて見ている。

●燃料電池車は、2000 年のころは、1 台 1 億円以上かかった。それが今、トヨタさんが今年の春に 1 台 500 万円というのを発表された。500 万円ということは、今アイ・ミーブが 450 ~ 460 万円しているので、本当にそれに手が届くところにきている。燃料電池があるためには、水素の充填ステーションというインフラが用意されることが必要だが、水島の製油所などでは、水素が大量に副生で出ているので、石油業界は自動車メーカーと一緒に燃料電池を 2015 年に向けて本格普及させるための取組を進めていて、ここ 2 ~ 3 年が日本における燃料電池の普及が軌道に乗るかどうかの大きなヤマ場にさしかかっている。技術が非常に進んできているので、あとはインフラの整備となると、岡山は水島

を持っている。燃料電池は、ガソリンと同じように非常に難しい構造で、世界の最先端の企業しかやれない。長距離で中・大型の車を走らせる推進力というもので、ばかにならないオプションになる。

●電気だけで走るEVがあるということで他の技術の開発が免罪されるというか止まってしまふ、そこが怖いと思っている。

●電気自動車は、あくまで「one of them」としての取組だ。

●岡山の戦略を考えているので、本当に身近なことで、岡山がやっていることをもっと伸ばしていけばいいと思う。ごみゼロ社会の中で「もったいない運動」を展開しているが、「もったいない」という言葉が国際的に通用する言葉になってきており、全国的にも非常に浸透してきた運動の一つである。このような既にやってきたものをさらに強めていく。岡山県に行ったら、非常に「もったいない精神」が浸透している。これだけでも私が言うイメージにはぴったりなのだが、例えば、廃校になったり使っていないようなものをもう一度リニューアルする。これは、今現在、日本経済の中でいたるところでやっているが、これをトータル的にやっているのが岡山なんだというのが、完璧にイメージ戦略に合う。お金があまり要らないし、やろうとすれば起業にもつながり、いろんな人材育成にもつながってくる。

環境というものを大きな観点で考えるのも大事だが、原子力発電所などの施設を当県に抱えているのであれば、それを前面に出してエネルギーも語れるかもしれないが、県として戦略の中に新エネルギーを頭に掲げるとするのは、果たしてフォローアップできるのかなという不安はある。

●電気自動車というものを前面に出すというのは、技術に対するロックインの問題がある。今はむしろ電気よりも水素戦略ということで考えていくのかなと思う。

この資料にないもの、省エネとカリサイクル系の話だが、例えば省エネ家電とかが、今もう一回、アジアを中心にして世界的にマーケットが広がっており、また、リサイクル系では、社会全体を考えていくシステムとして打ち出せるものがもう少しあるのではないか。そこをこの「環境・新エネルギー」ところに、もう少し考えて入れた方がいい。省エネ家電だけではなく、省エネ建築資材も含めて、そういう視点での打ち出し方はどうか。それから都市レベルだと、金沢市など、民芸品を使った一つのリサイクル、省エネ都市サステナビリティ計画みたいな、伝統工芸を使ったようなものを使ってうまく考えていくような新しい発想で、今注目を浴びているようなところもある。もう少しシステムとして何か出せるもの、何か社会レベルで考えるものもあっていいのかなと思う。

●バイオマスは、林業の問題の中で考える、もっと言えば環境の問題ともつながってくる話なので、そここのところをきちっと整理した方がいいだろうと思う。とかく森林がCO₂を吸収するというので使われているが、きちっと理解した上で話をしないといけな。成長している木は、空気中のCO₂を吸収して、貯蔵し、その一部を自分の生命を維持す

るために使っている。若いときには CO₂ を吸収する方が大きいので成長していくが、スギなら 40 年、ヒノキなら 45 ～ 46 年になると、自分の体を維持するために使う代謝産物と稼ぐものがほぼ一緒になってきて、成長はほとんど止まる。樹木は CO₂ の吸収体というよりは貯蔵体になる。それを吸収、吸収とばかり言って、無限に樹木は吸収するイメージを持たされてしまっている。

森林全体を見たとき、森林は、地上部の木の部分と、下の土壌の部分の 2 つで作られている。木は落葉とか枝を落として成長していく。その落ちたものは土の中の微生物などによって分解されて CO₂ に還っていく。森林が成熟し、いわゆる天然林と呼ばれているような安定した森林になると、稼いでいる部分と分解していく部分が釣り合い、何百年と安定して生存できる。ということは、森林全体としては、CO₂ など何も吸収していないわけなのである。あるのは、樹木の中にある有機物と、地上に落ちている有機物が貯蔵しているだけ。そこをきちっと分けて考えないといけない。貯蔵体であるけれど、吸収体ではない。

ではどうしたらいいのかというと、人工林を作って、若木を植えて、スギなら 40 年して切ってその木材を使う。そしてそのあと、また植える。そうすると、これは森林全体で吸収体になる。その出てきた木材を有効に使えばいい。その過程の中で出てくるのがいわゆる廃材といわれるもので、それを使って「バイオマスエネルギー」とするのなら、非常に有効だと思う。今のように、森林を立てておいて、人工林を育てたままバイオマスを作りますといっても、すごいコストをかけて山の中に入って木を切り出してきて、わざわざそれをチップにしてと、それはものすごくコストが掛かる。だから、林業振興すべきだと思う。人工林を作って、どんどん木を切って、使って、植えてという、昔からやっていた林業。全部人工林にするのは難しいから、半分とか 6 割を人工林にして使う。そうすると、木材利用もできることになる。

そうしてもう一つ、木材を利用できるようにしないとイケない。日本の住宅産業は、日本にこれだけ木があるのに、なぜ日本の木を使わないで、ヨーロッパとかアメリカの木を使っているのか。それは結局、住宅メーカーが必要とする量、規格化された木材がないから、国産材で住宅の売り込みの計画は立てられない。それで外国の材木を使っている。外国の方が安いと言っているが、上がってきている。結局は木材を木材として使うだけのシステムが日本にできていないから。岡山県で人工林を使って、それから出てきた木材を規格化して、住宅産業に使える流れを作ってやる。そうすると、あっという間に循環を早めるし、もちろん環境にもいい。それで出てくる端材をバイオマスエネルギーとして使えばいい。国では無理だが、県ならできると思う。ぜひこれはやってほしいなと思う。そうすると、この岡山県というのはすごく先進県になると思う。

●間伐採はシルバーの人たちに活躍してもらおうという可能性もある。

●問題は、どんどんと林業従事者が高齢化、少数化して行って、やろうと思ったとき、誰も手に入らないとなること。だから、今のうちに早く技術伝承しておかないといけない。とにかく、木材というのは使ってそのあとは植えるという、その流れを作ることがまず第一。そうすると、いろんなところにモノが動き出す。今中国は木材を一番欲しがっている。

中国は、石油と穀物、その次は絶対木材の輸入国になると 17 年前から言ってきたけれど、もう完全に今中国は世界最大の木材輸入国になる。そういうことも考えると、先ほどもアジアに何を持っていくかという話もあったけれど、いろんな国へ木材を持っていける。これは、早くやるべきだと思う。

●岡山の木材の林業メーカーから話を聞いていると、木材を切り出すコスト、要するに林道とかそういうのが整備されていないので、それでお金が掛かるので、なかなか外材には対抗できないということを言っている。

●林業生産、木材生産している部分と、木材を利用している部分が切れている。じゃあつなげばいいわけで、そうすると、モノは動き出す。その間伐にコストが掛かって日本の国内産は使えないというけれど、売れば金が回るから、切るわけだ。その間は何で埋めているかというのと、国の補助金で埋めている。そんなことをいくらやっても国際競争はできない。

●日本より人件コストが高い北欧とかアメリカから遠路送ってきた木材が、日本の木材と競争力があるというのは、やはり日本の国内材の、切り出して実際に集成材にするところのメカニズムがおかしい。

●国産材を使おうとしていないから、そここのところをきちっとやればよい。岡山はほとんどヒノキだが、ヒノキという木は、世界最高の材質で、あれに勝る材質の木材はない。そういうものを持っておきながら、それが使えなくてアメリカのものを使っている。非常におかしなことをしている。

●木を山から降ろす道がないとのことだが、北部の方には広い農道がたくさんある。ほとんど車が走っていない農道が多い。だから、何が必要で何が要らないというのも、もう少し県レベルで整合性を付ければ、お金というのはどんどん要るほうに回せば回ると思う。

●放置された水田があるが、米を作ろうと思うと、ごく小規模でコストがかかるけれども、極端な話、木を植えればあんなに作業しやすいところはない。放ったらかすよりはずっといい。

●林業なら林業だけの育成とか再生というのは、これはしんどいと思う。林業育成の中で新エネルギーと関連付けて、県単位で戦略を立てていくというのは賛成。それはやりやすいと思うし、岡山県の場合には非常にイメージしやすいのではないかな。

●確かにこれまでは、アメリカの山で切ったものを船に乗せて日本に来るのに、例えば中国山地で切ったより安かったという話があった。でももう、中国がすごい需要を持っているわけで、外材が安いという話はもう一部なくなっている。そうすれば日本の木材を使わないと仕方がないではないか。これからは金ではなくて、資源そのものがどう動くかとい

う話のところで考えないといけない。そうすると、やはり国内で林業と木材産業というのをつなぐという話をしないとイケない。岡山はそれを先進県でやってしまえばいい。

●岡山というのは、そういうイメージがある。

●先ほど言ったように、岡山の森林というのは、全国で珍しくヒノキが多い。普通はスギ。ここ岡山はヒノキが多い。非常に珍しい。ヒノキのいいものをたくさん持っている。

●今までは家が足りなくて、たくさんの量を作らないといけないということで、木材はたくさん必要だったと思うが、これからはやはり少ない人数で、少し高くてもいい家をというふうに変化の需要自体も変わってきていると思う。だから国産品の、少し高くてもいいものを使おうという雰囲気になって、個人の建築士などはそういう方向に走っている。これからは大企業もその方向になっていくので、それをいち早く岡山が先頭を切って名乗りを挙げて、システム化してやっていくというのは、非常にいいと思う。

<医療・福祉・健康>

●メディカルツーリズムは大きな産業になっていくというのは、多分間違いないのではないかと。その方向に向けて、規制緩和の一環として医療機器なり新薬なり、いろいろなものが従来以上にやりやすくなる方向に向けて規制緩和が進むであろう。また、TPPを日本がどんどん進めていく場合に、アジアの、インドネシアとかフィリピンとかの国との関係で、必ず介護士、看護師、そのような人たちの試験をもう少し現実的なものにしろという方向での制度的な環境というものも変わってくるだろうから、そのようなことも視野に入れながら、岡山で医療ツーリズムというのを大々的に仕込んでいく、いいチャンスではないかと思う。

●看護とか医療の関連で、外国人を入れるという話は、県のレベルではなかなか難しいのかもしれないが、何か突破口を作ってやらないと、その分野の人がミスマッチで足りないということが続いて、事業そのものがうまくいかないということになると思うので、これは何か工夫をしていただきたいと思う。

●患者の側から見ると、ここからは医療でここからは福祉だとは切り離せない。だから福祉の部分と医療の部分とつながっていないと、これは福祉事務所へ行きなさい、ここからは医療ですよと、非常に不便。医療と福祉を一つの視野に置いていかないといけないということを、ぜひ県レベルでもやっていただきたい。

医工連携（工学的なテクノロジーを医療の中に入れるということ）は、岡山はかなり先進的なことをやっているけれども、まだまだ、産業としては負けている。もう少しその辺を県として取り組んではどうか。究極は医療ロボットだと思うが、そこまでいかないと、何か新しい、どこにもないものを、県がやってくれば、「ものづくり」はできるから、そこをつなぐ。特に、いくつか今成功している例があり、もっと余地があると思う。

●「医療・福祉・健康」というのは人口をとどめる、あるいは流入させる要素になる柱ではないかと思う。急性期を含めた、非常に安心して医療を受けることができるというイメージを全国に発信すれば、岡山へのUターンを促進することにもつながる。特にどこの県に行っても医師不足だが、岡山県の場合は岡山大学を中心として、医師の供給が結構あるようなので、岡山大学を中心として、関連医学部から岡山県の総合病院に医師を運んであげるようなシステムを組んでいけば、岡山県は安心して住める県となるのではないかと。ここを柱として議論を進めたらいいと思う。

併せて、健康増進・予防医学・治療・リハビリテーションの四つの足並みが揃うような県にして欲しい。既存の機能、施設を、廃校になったり使っていないようなものをもう一度活用しながら、それぞれの施設を強化していけばいいのではないかと。

●参考までに、規制改革の議論の中で、日本人で海外で医師免許を持った人が戻ってきたときに、日本の医師免許に書き換えられるような制度を導入する議論がある。そうなる

くると、やはり医師不足のときに、人材の流動化とパッケージで考えて、そのようなことを視野に入れたものを作っていく必要があると思う。

もう少しトータルでシステムとして考える。先ほどの医療と福祉・介護もつなげ、それにプラスアルファ、今度はスポーツとか健康維持とかもつなぐ。県全体としてこれだけ健康に対して素晴らしい取組をパッケージでやっていますよ、一つのサイクルで見られるような戦略としてやっていますよ、そういう見え方を、ぜひ示してもらいたい。スポーツも、そういう意味ではリハビリと合わせて、岡山で得意としているスポーツの分野とうまく連携しながら、全体のサイクルで見られるようにすると、多分、特区を出した時も、「これも全部入っている。これも入っている。これはもう町を挙げて、県を挙げてやっているんだ」という見え方が、重要なんだろうと思う。

●それはものすごく大事だ。「見えるようにする」それが定住人口が増えるという方向ともつながっていくと思う。

●運動公園や競技場を整備する場合、どうしても、オリンピックに出る選手とか、国体に出るトップアスリートの養成等を想定して考える。それも大事なわけけれども、もっと底辺のところ、健康維持のためにやっている人がどんどん広がっている。でも、その人たちにとって、どういうプログラムで何をどうしたらどうなるかということ、きちっと相談に乗れる公的な施設を、トップアスリートとは別に整備すべきだと思う。それが、もしできれば随分特色になる。先ほどの医療とからめてと言うか、まさにパッケージとしてやらないといけない。

<中山間・農林水産>

●いわゆる産業としての林業と中山間地域の人たちがやっている生業的な、例えば里山を保全するとか、そういったレベルのものと二重で考えていかないとバランスが取りにくいと思う。いわゆる木材というものを売るといふのと、林地残材の活用は、多分全然違う話だと思う。中山間地域の問題を考えると、第一次産業という産業の側面と、ここの人たちが暮らしている里山、里海の保全の側面と、二重に考えていく必要は絶えずあると思っている。

中山間の農林水産の項で、漁業水産業関係の項目がない。岡山のイメージは、やはり山と海があるということで、それで豊かだというふうには外からは見えるようだ。そのときに、海とか、川、内水面もすごく重要だと思っているが、そちらの項目がないのはちょっとまずいのではないかな。海の側面は、環境とも関わっていて、海水浴、潮干狩りというような海の持つ豊かさのイメージを再生する里海再生的な視点も必要と考えるので、水の方をぜひとも入れておいていただきたい。

長野県で信州サーモンが今すごい伸び率なのだが、これはもうブランドになっている。これは、海とか川ではなく、普通に田んぼだったところで作っている。だから、やりよう次第では、内水面の活用とか、農業とマッチしたような水産養殖といったことはいくらでも、岡山の場合は豊かな山もあるし川もあるということで、まだまだ活用できるのではないかな。

先ほどの二重で考えることだが、産業のセーフティネットの意味だが、大規模に農業を展開してアジアに売り出すといった場合、アジアに売り出すばかりを狙っていると、何かあった時にすごいダメージも大きくなるのではないかな。そうした時の絶えずセーフティネット的なもの、大きくはないけれども、確実な産業立地という、確実な第一次産業というものも、絶えず念頭に置いていかないと、多分県北全部なくなってしまうのではないかな、岡山から農業がなくなってしまうのではないかなくらいの危険性も感じる。全体としてバランス感覚というのは重要ではないかな。

先ほどの環境のところ、マイクロ水力の話が出たが、小川や川は県内中にあるので、そういった取組をするのであれば、街中だけでない形で考えていけたらいい。機械というハードを置くという意味だけではなく、それにソフト的機能を付加する。例えば新しい景観を作り出す、いわゆる自然景観の中にうまく溶け込むようなものを狙うというものを作り出していくことで、岡山が伝統的で古いものを大切にしているだけではなくて、そういった新しい展開もしているという、そんな岡山の在り方も見られるのではないかな。

雇用の吸収力の問題で、農業はいけるといふのは同感。第一次産業抜きにしたら、本当に日本というか、岡山はもう駄目になると思う。岡山は交通の利便性が高いと言うが、外からは海と山が豊かだけれど、はっきりいって田舎と言われる。田舎を逆手に取って、逆に地理空間的に東京から離れている強み、東京ばかりに向いているのではなくて、西日本の中での拠点というような位置付けで農業圏、第一次産業圏というイメージを岡山で作っていったらいいのではないかな。

●農業問題は、やはり二重で考えていかないと、片方の、中山間のところを何とか保護しようとしてやっていると、今度はいわゆる国際競争力のない農業という問題になってしまおうし、逆に国際競争力がある農業だけを育成しようとする、中山間、里山も皆つぶれてしまい岡山の農業がなくなる。両方両立させるようなことを考えなければいけない。これは非常に難しいと思うが、韓国がF T Aに参加したとき、やはり同じように大問題になった。その時、産業界に、農業に金銭的な、技術的な面も含めたしかるべき貢献をきちんとやるということの条件で、可能になったと聞いている。日本も恐らく、あと 10 年たったら、本当にもう農業の担い手が著しく減ってしまうので、今のうちから、F T AとかT P Pに備えた競争力のある農業を育成するということの準備はきちんとやっておかねばいけない。

●「おかやま発展戦略会議」の取りまとめとして、いわゆる発展戦略と、いわゆるセーフティネット、弱者救済と、両方するのか、それとも、発展戦略的なことをここでまとめるのか、どういうやり方かということによって、農業のことについては書き方が随分変わってくるのだろうし、医療・福祉のところでも同様のことが言える。そのあたり、この発展戦略会議はどういう観点で取りまとめるのか。

●中山間地域は、柔軟に、両面から考えていくのが必要なのではないか。産業界の、例えばT P P、F T Aに関連した地域や農業への協力というのは、経団連の中でも一部で声が出始めている。農業と産業との共生という視点は、岡山の発展戦略を考えるに当たっても、あっていいのではないか。

●里山・里海というのは英語になっていて、世界から注目されている。まさに将来を見据えた発展戦略で、中山間地域と言われると、何となくセーフティネットも含めた何かそういう話っぽく見える。見せ方としては、「S A T O Y A M A」「S A T O U M I」という英語のイメージで、魅力的な、競争力のある地域をつくるというトータルストーリーの書き方がいいのではないか。今世界から注目されている日本の里山・里海が、岡山には両方あるということを世界に打ち出すために、そういう言葉をまず使っていこうというのはどうだろうか。

<人材育成>

●国の来年度の予算の中に、科学技術振興調整費を使って、町を挙げた高度人材の受入れに対して助成をするという項目が出ているので、ぜひ積極的に活用していただきたい。

●日本の教育で国際的に負けるものは何もないと思う。ただ一つだけ負けるのは語学。言葉を操るというスキルが、極端に日本は低い。もっと絞って英語と言ってもいいと思うが、極端に低い。これは日本のものすごい大きな特色だと思う。まずは岡山で「英語が使える」ということを徹底して県が指導してもいいと思う。大学にやらせてもいいし、語学学校を使ってやってもいい。これだけのことで、がらっと日本は変わると思う。だから岡山だけでもそれをやる。昔、私たちの時代の学生のころは、英語の下手なのは日本人と韓国人とタイ人だというのは有名だったが、今は違う。韓国人もタイ人もみんな英語を使う。日本だけが全然進歩していない。日本だけが遅れている。日本人は、何かきちっとしゃべろうと思うと、もう言葉が詰まるということで損をしている部分がある。言葉が使えるということは、持っているものがすごく有効に使えるということにつながる。英語だけを何とかすればいい。そんなに何十年かけることではない。1、2年でできること。ぜひ、岡山を英語県にしたいと思う。

●私自身の経験でいうと、やはり英語は小さい時からやった方がいい。できれば幼稚園の段階からやらないと、耳がついていかない。これは一番重要なこと。

●岡山へ行ったら英語使いになれると言ったら、どんどん来ますよ。たったそれだけのことで、ここは変わる。

●英語は普通の会話ではなくて、できたら工業英語と言うか、やはりビジネス英語とか、そういう専門的なことを英語で教える、英語で伝えることができる人材を、ぜひ育てていただきたい。

●これは本当にすぐできることで、効果はすごく大きい。

●一つ参考までに、多分今回JET（ジェット）プログラムという海外から英語指導助手等を入れてくる事業があるが、それが仕分けの結果、将来的には先細りしてくる。だからそのJETを地域でやれば、今まで全国に行っていたものが、ここに入ってきますから、ぜひ入れておいた方がいい。